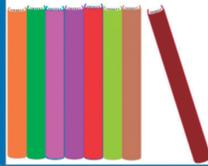




大人が絵本を 第49回 災害国ニッポン 子ども



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

自然災害と人為的災害

「大人は汚い」。そんな言葉が子どもたちの口について出るほど、醜い事件が立て続けに報道されている日本社会です。国や組織を牽引し、後進育成に誠心誠意、勤しむ立場にある大人たちが、私利私欲だけで裏工作をしたり、権力を振りかざして前途有望なこの国を担っていく若手ホープに圧力をかけたり、人権侵害も甚だしい不見識で差別的な言動をとったり、ドロドロとした汚い姿が組織や団体をまたいで、次々と露わにされています。作弄的な事件・事故で、本来存在しないはずの被害者を数多く生んでしまっている実態を見た子どもたちは、明るい未来を描いて夢を膨らませることができるでしょうか。

人為的イベントは、人間によって防ぐことが可能です。防がなければならないのですが、ここ数年頻発している自然災害ばかりは、人間の手で防ぎようがありません。予測不能な自然の猛威に、人間は飲みこまれ、ただ立ちすくむだけです。しかし、支え合う力、明日に立ち向かう力をもっているのも人間なのです。特に目を向けなければならないのは、気持ちや封じられる子どもたちです。昨今、全国規模で発生している自然災害による子どもの心理ストレスの事案を受けて、被災地の子どもたちの心のケアが注力されるようになりました。

子どもたちの心のケアは…「遊び」

2016年に熊本を襲った地震の後、「被災の子ども心のケアを；夜泣き、問題行動 遊びが治療に」との記事が西日本新聞に掲載されました¹⁾。2011年、東日本大震災を支援した国際医療ボランティア団体のNPO法人ジャパンハートは、「被災した子どもた

ちは不安を紛らわせようと、体を動かす遊びを好む子が多かった」として深呼吸を促したり、たくさん体を動かしたりできる遊びを避難所などで取り入れたと報告しています。

遊びが治療といえども、生活に必要な最小限の救援物資が優先され、がれき等の早急な撤去作業が求められる中、子どものための遊び道具をそうそう集められるものではありません。ましてや、被災して間もない頃であれば、子どもたちだって身体を目いっぱい動かして遊ぶような気力すら、まだ持てないでしょう。そんなときでも気軽に取り入れられ、心の安寧をもたらしてくれるもの、それは伝承遊びなのです。

『あそぼーう』
入江千春 著
(海鳥社)



『あそぼーう』と表紙タイトルが元気に呼びかけてくる大判の絵本は、楽しい伝承遊びのハウツー本です。“てるてる坊主”や“せっせっせ”で遊びながら博多弁で会話する子どもたちの姿が、見開きの左ページにあり、右ページは遊び方が解説されていて、この一冊さえマスターしておけば、誰でもレパートリーの幅を広げて、簡単に遊ぶことができます。手合わせ遊び歌や影絵遊びなど、道具がなくても室内でできる遊びはありますし、絵かき歌だって木の棒さえあれば、地面で「あーっという間に」「たこ入道」が描けるのです。

遊びの力！ 全身遊びも歌遊びも心の癒し

「伝承遊び」とひと口に言っても、石けり、鬼ごっ

手にするときは！

の心のケアのためにできること

企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

こといった運動量の多いものから、わらべ歌などの歌ってスキンシップをとる静かな遊びまで多様です。ですから、被災直後に自分の本心を抑え込んでいた子どもたちが、状況が落ち着くにつれ、感情を表現し始めたとき現れる夜泣きなど正常反応がみられるようになったら、大人が子どもの気持ちを共有しながら、子守唄やわらべ歌をゆったりとしたリズムで歌って副交感神経に働きかけてあげることが、道具を必要とせずにできる心のケア方法なのです。

「めんめん すーすー けむしし きくらげ ちゅ」。子どもの目じり、鼻筋、まゆ、耳朶をやさしくタッチするわらべ歌「めんめんすーすー」は、生まれたばかりの赤ちゃんから楽しめる、顔が舞台の物語で、お母様の優しい唱えかけが、子どもとお母様とを心地よい気持ちにさせてくれます。誰でもみんなが知っている「だーるまさん だーるまさん」は、赤ちゃん与会話のやりとりができる遊び歌です。目や表情を使った遊びは、言葉を操る大きな子どもや大人にもノンバーバルコミュニケーションとして活用されている技法です。

これら赤ちゃんの手足を動かしてあげたり、触れ合ったりして、成長に合わせた楽しく柔軟な遊び歌が満載の『あかちゃんとお母さんのあそびうたえほん』(のら書店)は、「素朴で具体的な子育ての方法(遊び)を、若い、子育て真っ最中のお母さんに手渡したい」という作者の思いから生まれた絵本です²⁾。もちろん、幼稚園くらいの子どもも楽しめますし、思春期に入りつつある小学生のお子様とのコミュニケーションにも取り入れやすいです。



こんなところに子育ての知恵!!

わらべ歌は、子どもにとっては運動的、社会的

(ルール観、人間関係の作り方など)、言語的な刺激でもあり、自分が生きていく上で知らなくてはならない自然環境や社会環境を知る上でも大きな役割を果たすものとされています³⁾。わらべ歌を次代に伝えたいと伝承に努めている岩手県遠野市の安部ヤエ氏は、「そのときだけ楽しんで終わりという(電子)ゲームとは違い、わらべ歌はどれにも子どもを育ててゆくものがあり、それが大事なところ」と言います。例えば「あそび唄」は、体を育て身軽に動けるように、社会人として人と共に生きていけるように育てる唄、「呼びかけの唄」は五感を育て心の豊かさを育てる唄、「はやし唄」は躰や礼儀作法を教え、人に負けない知恵を育てる唄で、子どもの楽しみとして伝えられていったもので、そのすべてが人の発育・成長に意味のあるものなのです⁴⁾。



『おかあさんと
子どものあそび
うた』シリーズ
真島節子 絵
(こぐま社)

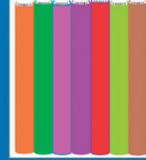


“おしくらまんじゅう”の遊び唄や、“ゆうやけ こやけ”の呼びかけの唄など、四季折々のわらべ歌が編纂された『あんたがたどこさ』(こぐま社)は、歌がすぐには出てこない若いお母様方でも思い起こすきっかけとなるわらべ歌集です。被災地では、親子のわらべ歌遊びも良いですし、子どもたちが集まれば「おせんべ」や「ずいずいずっころばし」など、集団の手合わせ遊びもコミュニケーションの回復につながるでしょう。



功績か罪か。人間がつくった遊びあれこれ

道具がなくても遊べる絵かき歌ですが、50歳以上



の大人の皆さまなら、棒や石を使って遊んだ経験をお持ちだと思います。今、屋外でそんな子どもの姿を目にしなくなりましたし、紙と鉛筆でお絵描きをしても、絵かき歌で遊ぶ姿は見られなくなりました。

伝承遊び研究をライフワークとしていた、かこさとし氏は、「身近周囲にある小石や草木などを利用活用することは、遊ぼうという意欲、遊びたいという希求があれば、玩具がなくても楽しさを創出し、必要ならば自力を総動員して製作入手する過程が、また楽しい遊びであることを示している」と述べています⁵⁾。子どもの玩具がデジタル化・電子化された時代、機械相手に対戦するだけでゲームの虜になりますし、ピコピコと電子音を受け、自ら想像しなくても放たれる刺激的な光線に魅了される子どもたちは、遊びの世界にいるのに、創造する楽しみを奪われているように思います。



平成生まれの子が夢中になる人気ものを 生みだした、大正生まれの2人の絵本作家

1926(大正15年)生まれのかこ氏を「深い子どもの森へと誘惑し、奥知れぬ遊びの世界を彷徨させる端緒となった」のは絵かき歌でした。歌いながら棒切れで地面にキンギョの画図を出現させている子どもたちの姿に目が止まったことで、その地域差による相似と相違に疑問を抱き、全国各地の様々な絵かき歌を50年以上採取してまわり、総数10万以上のナマ資料を記録したのです⁶⁾。それを『伝承遊び考1巻 絵かき遊び考』という全598ページからなる文献集にして後世に残してくれました。本連載でキーワードとしている子どもの特性であるところの好奇心、探究心、驚く力すべてが、かこ氏の中に子ども同様に保持されているからこそ、成された功績でしょう。

かこ氏と同時代を生き、晩年も子どもに寄り添ったお話を創り続けた、もう一人の偉大な絵本作家やなせたかし氏(1919-2013)が生んだキャラクターも、時代が変わっても子どもたちを魅了し続けています。やなせ氏といえば、アンパンマン1点のイメー

『えほん えかきうた』
やなせたかし 作・絵
(あかね書房)



ジが強いと思いますが、他のお話もたくさんあります。なかでも異色は、絵かき歌をつなげて創った『えほん えかきうた』でしょう。アンパンマンに登場するキャラクターによく似た動物たちが、タコやトンボなどの描き順を教えてくれるので、子どもたちは「鉛筆ちょうだい」と描く気をそられてしまいます。やなせ氏が言うように、メロディーはなんだったいいのです。親子で自由に楽しく歌いながら、モノが出来上がっていく過程を楽しむことが醍醐味なのです。



まるかいて ちゃん

かこ氏が誘惑された“絵かき歌”の端緒となったキンギョは、現在アラフィフ世代や中年期、そして高齢期の方々には懐かしさあふれることでしょう。そう言われても空では思い描けないという方であっても、『えかきうた まるかいてちゃん』(童話館出版)を見ればスラスラと歌いながら描きあげられること間違いありません。「山があつて、里があつて、大根畑に麦畑♪」。唱歌「春が来た」のリズムにのって、キンギョが完成しましたでしょうか。

本書はキンギョを筆頭に、かこ氏が彷徨し、蒐集した日本古来の伝承絵かき歌が豊富ですので、子どもだけでなく、高齢者の脳と指先のリハビリにも適しています。時代を超えて全国に流布されている“たこ入道”と“コックさん”は楽譜まで載っているので、平成生まれのお父様お母様にも心強い遊び道具となります。

ひとつの丸や、一本の線から始まる画が、歌にのって形を変化させて、それを見よう見まねで描く子どもたちの想像は膨らみ、最後に出来上がるもの

に感激するのです。現代の子どもたちだからこそ、楽しみは広がりますので、被災地の子どもたちにおすすめてすし、小児歯科医院でも簡単に取り入れることができます。

じゃんけんポン!

かこさとし氏ときたら、絵かき歌だけでなく、じゃんけん遊びも探究したのです。じゃんけんは、遊びの先行準備に用いるため、その期待や遊びに没入したい要望から次第に長文長詞句となり、さらに躍動するリズムで高揚して、「歌」の形をとり「歌ジャン遊び」が多数生まれています⁷⁾。“おてらのおしょうさん”が『あんたがたどこさ』に収められてい

『じゃんけん ほかほか ほっかいどう』
長野ヒデ子 作
あおきひろえ 絵
(佼成出版社)



るように、わらべ歌絵本の中に集約されていることがほとんどですが、『じゃんけん ほかほか ほっかいどう』(佼成出版社)など単行絵本も存在します。

見る・聴く・つなぐ

本稿の入稿日が迫った9月6日の朝、北海道地震のニュースが飛び込んできました。熊本地震以来の震度7を観測し、山崩れや道路寸断の映像と、続く余震の速報に、被害が広がらないことと、これ以上自然災害で苦しむ人が増えないことを祈る毎日です。

北海道と、そして全国の子どもたちに与えた影響は多大です。どうか子どもたちの不安な心を受け止めて、毎日ギュッと抱きしめてあげてください。そしてお子様が不安定なときや寝る前、それから大人が不安定になっているときにも、特別なものを必要としないわらべ歌を歌って、気持ちをほぐしてみてください。「いもむし ごろごろ」は遊び方も多様で、お

子様を膝にのせて左右に揺れながら歌ってもいいですし、少し元気が出てきたお子様と一緒に床に寝っ転がって親子でゴロゴロすると、ちょっとした運動になります。子どもが4~5人集まれば、前のお友だちの肩に手を載せ連なって、芋虫ごろごろと進んでもいけます。歌遊びも触れ合い遊びも人を癒す力があるのです。

「災害発生から間もない混乱期には、忘れがちな娯楽も、子どもたちに日常生活を取り戻していくための復興支援の段階でますます重要になってきている」ことに日本ユニセフ協会は注目し、支援活動を行っています⁸⁾。北海道の被災者はもとより、全国各地で起きている自然災害の被災経験のあるお子様が自身の体験を思い起こし、不安定になっているケースも発生しているでしょう。

今こそ、子どもを診る医療機関が支援拠点となって、地域の親子のケアを担う必要があります。小児歯科医院はお口の健康に留まらず、セーブ・ザ・チルドレンが提唱する「見る・聴く・(専門家や情報へ)つなぐ」⁹⁾という役割を担っていきましょう。



文献

- 1) 西日本新聞社：被災の子ども 心のケアを：夜泣き、問題行動 遊びが治療に(熊本地震), 西日本新聞, 2016/4/29.
- 2) 小林衛己子 編, 大島妙子 絵：あかちゃんとお母さんのあそびうたえほん, のら書店, 東京, 1998, pp.38-39.
- 3) 木村はるみ, 蔵田友子：わらべうたとこども, 古今社, 東京, 2001, pp.8-10.
- 4) 安部ヤエ：「わらべうた」で子育て；応用編, 福音館書店, 東京, 2003, pp.175-177.
- 5) かこさとし：未来のだるまちゃんへ, 文芸春秋, 東京, 2014, pp.184-189.
- 6) 加古里子：伝承遊び考1 絵かき遊び考, 小峰書店, 東京, 2006, pp.11-36.
- 7) 加古里子：伝承遊び考4 じゃんけん遊び考, 小峰書店, 東京, 2008, pp.295-312.
- 8) 日本ユニセフ協会：遊びでいやされる子どもの心, ユニセフ基礎講座, 49号, 2011/09, ユニセフNET 通信HP <https://www.unicef.or.jp>
- 9) セーブ・ザ・チルドレン：子どものための心理的応急処置, セーブ・ザ・チルドレン HP <http://www.savechildren.or.jp>